

## 田代信二先生を偲ぶ

著者	飯田 和
著者別表示	Iida, Kanoo
雑誌名	植物地理・分類研究
巻	33
号	1
ページ	56
発行年	1985-06-15
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/00056223">http://hdl.handle.net/2297/00056223</a>



**Distribution.** Japan, C. Honshu: Prefs. Okayama, Hyogo, Kyoto and Shiga.

(Received May 10, 1985)

○ ベニミヤマタニソバ (新品種) (米沢信道) Nobumichi YONEZAWA: A New Forma of *Polygonum debilis* MEISN.

ミヤマタニソバの花被は白色で、しばしば上部が淡緑色を帯びる。ところが、滋賀県比良山などでは、写真のように花被（とくに上部）が紅紫色の集団が見られる。このものは、托葉鞘の先が腎円形の葉状をなす傾向が著しい。生育地は、山地の谷の林縁や川原の砂礫中である。比良山では典型的な集団も見られるが、今までのところ、両者が混生するケースは見ていない。最後に、この間、標本の閲覧に御便宜頂きました京都大学理学部の河野昭一教授、植物の採取に御協力頂いた成安女子高校の野村健治先生に厚く御礼申し上げます。



*Polygonum debilis* MEISN. form. *purpurea* YONEZAWA, form. nov. Perianthes purpurei.

**Nom. Jap.** Beni-miyamatani-soba (nov.)

**Hab.** Honshu. Pref. Yamanashi: Hirogawara, Ashiyasu-mura, Nakakoma-gun, alt. ca. 1500m (N. YONEZAWA no. 3680, Jul. 26, 1984, KANA); Daimonsawa, Narada, Hayakawa-cho, Minamikoma-gun, alt. ca. 1000m (N. YONEZAWA no. 3693, Jul. 29, 1984, KANA). Pref. Shizuoka: Abe-ootaki, Umegashima, Shizuoka City, alt. ca. 700m (M. KATO & N. FUJITA no. 244, Sept. 6, 1971, KYO): Nr. Senzu Dam, Sunmata River Valley, alt. 750m (T. KOYAMA, OCT. 11, 1954, KYO). Pref. Shiga: Mt. Hira, alt. ca. 1000m (N. YONEZAWA no. 3538, Jul. 24, 1983-Holotypus in KANA no. 114339); *ibid.* (N. YONEZAWA no. 3451, Oct. 10, 1982, KANA) (N. YONEZAWA no. 3636, Oct. 10, 1983, KANA). Pref. Kyoto: Mt. Hiei (M. ITO no. 7, Oct. 21, 1977, KYO).

(Received Nov. 27, 1984)

○ 田代信二先生を偲ぶ (飯田 和) Kanoo IIDA: Obituary of the Late Mr. Shinji TASHIRO

田代信二先生の訃報を、ご子息を通して知ったのは、たしか昨年の6月6日であったように思う。晩年目がご不自由であったようですが、それでも家の人に「まだまだ知っておかなければいけないことがある」と申されて、新刊書を買つけては購入されて読まれておいでのようでしたが、惜しい方をなくしてしまいました。何か私どもの支えを失ってしまったような気がいたします。謹んで哀悼の意を表します。

私どもが小田原グループを誰が発案するともなしに結成したのが、たしか昭和31年でしたから、植物を通してのおつき合いはかれこれ30年近くなります。今過ぎし日の先生のことどもを思い起こすと、まず最初に思い

出されることは、実にバイタリティーに富まれた方だということです。シダ植物を本格的に始められたのは60才前後の頃だったと推測するのですが、その頃30代前半の私も遠く及ばない程の頑張り屋で、ほんの1例ですが、土曜の午後から日曜1日かけて起伏の300mは優にある丹沢40km以上のコースをそれこそ平然と採集行をされますし、それがまた体力面だけでなく、実に多くの文献にも通じておられました。先生と奥山和子さんと私とで1958年に西丹沢で今で申す「ヤシャイノデ」の日本における第2の群生地を発見した時も、北陸の植物、第5巻第3号の倉田悟先生のシダ類ノートの記載を既に熟知されており、言下に「イナイノデ、間違いなし」と申された一事をもってしてもお判りいただけると思います。

また、先生で忘れることの出来ないことは、1959年日本シダの会の全国大会が、信州白馬山麓で開催された折、私どもの目あてはシロウマイタチシダでありましたが、それも果されると同時に、尚も余裕をみせられて、カラクサイノデとイワシロイノデの間種であります「シロウマノイデ *Polystichum* × *shintashiroi* KURATA」に注目され、その夜の話題は一挙にこのイノデに集中し、学名の献名をうけたことから、誰呼ぶとなく「シロウマイノデの田代さん」で通るようになったことはご存知の通りです。

単に、研究分野はシダ植物だけに限りません。アキザキヤツシロラン、アケボノシュスラン……と果てしなく続きます。緑とシダをこよなく愛し続けた、田代信二先生のご冥福を心からお祈りいたします。

## 雑 録

住所変更および訂正（昭和60年1月～昭和60年6月）

- 秋山 忍 〒113東京都文京区本郷7-3-1 東京大学総合研究資料館植物 → 〒167東京都杉並区下井草3-20-13 (関東)
- 安藤久次 〒730広島市中区東千田町広島大学理学部植物学教室 → 〒739-17広島市安佐北区高陽町倉掛3丁目43-2 (中国)
- 千村速男 〒380長野市若里北市828-1 営林局柳沢アパート → 〒399-56長野県木曾郡上松町本町通り1丁目106 (中部)
- 原 松次 〒050室蘭市高砂町3の11文化女子短大 → 〒064札幌市中央区南6, 西13リリー・ハイツB3号 (北海道)
- 長谷川幹夫 〒931富山市蓮町南部2南3号 → 〒930-13富山県中新川郡立山町吉峰富山県林業試験場 (中部)
- 東本晃一 〒500 岐阜市華陽町1丁目17-18 → 〒509-01各務原市緑苑南1丁目106 (中部)
- 池田豪憲 〒891-21垂水市田神97 → 〒893 鹿屋市曾田町4の2 (九州)
- 井関智裕 〒183調布市下石原3-40-12みさきハイツ202 → 〒150東京都渋谷区神宮前2-8-2パシフィックコンサルタンツ株式会社開発計画部環境課 (関東)
- 加藤君雄 〒010 秋田市泉上の町82の2 → 〒010秋田市下北手桜字守沢秋田経済法科大学生物学研究室 (東北)
- 松田義徳 〒950新潟市桃山町1の64清水様方 (中部) → 〒012湯沢市杉沢字森道上239 (東北)
- 路川宗夫 〒305茨城県新治郡桜村並木4丁目912-102 → 〒305茨城県新治郡桜村天王台1-1-1 筑波大学生物科学系 (関東)
- 中柴義威 〒921金沢市窪5の86 → 〒928-03石川県鳳至郡柳田村字上町久二字22番一地 (中部)
- 中田政司 〒305茨城県新治郡桜村天久保4-1-1, 国立科学博物館筑波実験植物園 (関東) → 〒930広島市中区東千田町1-1-89広島大学理学部植物学教室 (中国)
- 能城修一 〒113東京都文京区弥生1-1-1 東京大学農学部森林植物教室 (関東) → 〒558大阪市住吉区1-11-3 稲谷文化2階2号 (近畿)
- 尾川原正司 〒612 京都市伏見区深草谷口町70-23 (近畿) → 〒906平良市下里1510農開宿舎D棟 (九州)
- 大野正男 〒350-02埼玉県入間郡鶴ヶ島町脚折224 → 〒350-02埼玉県入間郡鶴ヶ島町脚折町2丁目19-14 (関東)
- 大沢達郎 〒089-33北海道中川郡本別称生町49本別高枝 → 〒086-18北海道巨梨郡羅臼町礼文町9-3 羅臼高校 (北海道)
- 大塚孝一 〒380長野市小柴見213 → 〒380長野市安茂里犀北団地S3-8 (中部)
- 齊藤芳夫 〒910福井市大島町10-26福井銀行青葉寮304号 → 〒910福井市二の宮4丁目43-15福井銀行二の宮寮201 (中部)
- 佐藤 卓 〒939-05富山市水橋川原町2552 → 〒939-05富山市水橋的場195 (中部)
- 鈴木善雄 〒273船橋市金杉5-3-12 → 〒160東京都新宿区新宿1-25-1-901 (関東)